

令和5年度

大牟田市自然環境調査報告書

調査地区：勝立・櫟野地区



大牟田市民の森周辺

令和6年5月
大牟田市

大牟田市では、令和5年3月に「第3次環境基本計画」を策定し、自然共生社会の実現を基本方針のひとつに掲げ、自然環境の保全を重要な課題のひとつと位置づけていることから、自然環境に関する調査を実施し、その調査結果を自然環境保全の基礎資料として活用しています。

本報告書は、令和5年度に実施した勝立・櫛野地区の自然環境調査結果を分野ごとに取りまとめたものです。

目 次

1	調査目的	1
2	調査分野と調査実施期間	1
3	調査区域	2
4	調査方法	3
5	調査結果	4
(1)	植物	4
(2)	鳥類	15
(3)	昆虫類・クモ類	17
(4)	は虫類・両生類	25
(5)	ほ乳類	27
6	まとめ	28

1 調査目的

本調査は、大牟田市第3次環境基本計画（令和5年3月）に基づき、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民・事業者等の啓発に資するため実施した。

2 調査分野と調査実施期間

調査対象分野は表1の各分野とし、担当の大牟田市自然環境調査研究専門委員が春季、秋季の2回調査を実施した。

表1. 調査分野と調査実施期間

分野	担当専門委員	春季調査	秋季調査
植物	中島 健晴	R5. 4. 28	R5. 10. 12
鳥類	佐藤 政明	R5. 4. 19	R5. 11. 1
昆虫類・クモ類	中嶋 秀利	R5. 4. 19	R5. 10. 16
は虫類・両生類	松永 公幸	R5. 4. 2 R5. 4. 22 R5. 5. 14	R5. 9. 3 R5. 10. 1
ほ乳類	尾形 健二	R5. 6. 3	R5. 11. 14

3 調査区域

今回の調査では、図1のとおり、勝立・櫛野地区を調査区域とした。

図1. 調査区域・ルート図



4 調査方法

本調査は、目視確認による現地調査を基本とし、必要に応じて聞き取り調査や文献調査等を行うこととした。

確認された生物種は分野ごとに一覧表にまとめた。備考欄に記載した記号の意味は以下のとおり。

表2. 表中で使用した記号の意味

記号	用語	意味
Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大しており、将来的に絶滅のおそれのある種。
準絶	準絶滅危惧	当面絶滅のおそれはないが、その傾向が強まっている種。
(国)	環境省レッドリスト	環境省レッドリストを示す。
(県)	福岡県レッドデータ	福岡県レッドデータを示す。
特外	特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したもの。
植物のみ	木 木本類	木本類とは形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。 ⇨草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。「木」の記載がないものは全て草本類。 つる性植物については、木質化するものを木本類とし、それ以外を草本類とした。 竹については、諸説あるので木本類とはしなかった。
	外 外来植物	本来生息しない地域に、人為的に持ち込まれた植物。国内に移入された年代は諸説あるため統一された学会の見解は無いが、ここでは史前帰化と思われるものは含めないこととした。
	逸 植栽逸出	人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したもの。外来種については逸出を含め外来種としてまとめ、在来種の逸出のみを表示した。

5 調査結果

(1) 植物

- ◆ 維管束植物（シダ植物及び種子植物）を対象として調査を行い、維管束植物86科263種が確認された。
- ◆ 特定外来生物のオオキンケイギクが確認された。

表3. 確認された植物の調査結果

(新エングレー分類による)

分類群	のべ		春季		秋季	
	科	種	科	種	科	種
維管束植物	86	263	80	209	72	177
シダ植物	11	23	10	16	10	22
種子植物	75	240	70	193	62	155
裸子植物	2	2	2	2	1	1
被子植物	73	238	68	191	61	154
双子葉類	59	186	55	153	49	119
離弁花類	41	116	38	94	34	84
合弁花類	18	70	17	59	15	35
単子葉類	14	52	13	38	12	35

表4. 確認された主な植物

	<p>特定外来生物</p> <p>北米原産の多年生植物で、高さが30~70 cmになる。5~7月に橙黄色のきれいな花を咲かせることから、明治中期に日本に持ち込まれたが、繁殖力が強く、在来種との競合が懸念され、2006年に特定外来生物に指定された。</p>
<p>オオキンケイギク</p>	<p>(出典：福岡県保健環境研究所ホームページ)</p>

表5. 確認された植物

NO.1

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
シダ植物 (11科23種)				
イノモトソウ科	アマクサシダ	○	○	
	イノモトソウ	○	○	
ウラジロ科	ウラジロ		○	
	コシダ	○	○	
ウラボシ科	ノキシノブ	○		
オシダ科	イノデ	○	○	
	オオイタチシダ	○	○	
	オニカナワラビ		○	
	トウゴクシダ		○	
	ベニシダ	○	○	
	ヤブソテツ		○	
	ヤマイタチシダ	○	○	
コバノイシカグマ科	イシカグマ		○	
	フモトシダ	○	○	
	ワラビ	○	○	
シシガシラ科	オオカグマ	○	○	
ゼンマイ科	ゼンマイ	○	○	
ハナヤスリ科	フユノハナワラビ		○	
ヒメシダ科	コハシゴシダ		○	
	ホシダ	○	○	
	ミゾシダ	○	○	
フサシダ科	カニクサ	○	○	
ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○	
種子植物 (75科240種)				
↳ 裸子植物 (2科2種)				
ヒノキ科	ヒノキ	○		木、(県)準絶
マキ科	イヌマキ	○	○	木

表5. 確認された植物

NO. 2

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
種子植物 (75科 240種)				
└ 被子植物 (73科 238種)				
└ 双子葉類 (59科 186種)				
└ <u>離弁花類 (41科 116種)</u>				
アオイ科	キンゴジカ		○	外
アカバナ科	コマツヨイグサ	○		外
	メマツヨイグサ	○		外
アケビ科	アケビ	○	○	木
	ゴヨウアケビ	○		木
	ミツバアケビ	○	○	木
	ムベ	○	○	木
イラクサ科	ヤブマオ	○		
ウコギ科	カクレミノ	○		木
	キツタ		○	木
	タラノキ	○	○	木
	ハリギリ	○	○	木
	ヤツデ	○	○	木
ウリ科	アマチャヅル	○		
	カラスウリ		○	
ウルシ科	ヌルデ	○		木
	ハゼノキ	○	○	木
	ヤマハゼ	○	○	木
カエデ科	イロハカエデ	○	○	木
カタバミ科	オッタチカタバミ	○		外
	カタバミ	○	○	
	ムラサキカタバミ	○		外
キンポウゲ科	センニンソウ	○	○	木
	ヒメウス	○		
	ボタンヅル	○		
クスノキ科	クスノキ	○	○	木

表5. 確認された植物

NO.3

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
離弁花類 (続き)				
クスノキ科 (続き)	シロダモ	○	○	木
	タブノキ	○	○	木
グミ科	ナワシログミ	○	○	木
クワ科	イヌビワ	○	○	木
	オオイタビ	○		木
	クワクサ		○	
	ツルコウゾ	○	○	木
スミレ科	コスミレ		○	
	スミレ	○	○	
セリ科	ウマノミツバ	○	○	
	シシウド	○	○	
	ノチドメ		○	
	ミツバ	○		
	ヤブニンジン	○		
センダン科	センダン	○		木
タデ科	アレチギシギシ	○		外
	イタドリ	○	○	
	イヌタデ		○	
	スイバ	○	○	
ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	○	○	木
ツバキ科	チャノキ		○	木
	ヒサカキ	○	○	木
	ヤブツバキ	○	○	木
トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○	木
	コミカンソウ		○	
	ナンキンハゼ	○	○	木・外
ドクダミ科	ドクダミ	○	○	
ナデシコ科	オランダミミナグサ	○		外
	コハコベ	○		外

表5. 確認された植物

NO. 4

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
離弁花類 (続き)				
ナデシコ科 (続き)	ツメクサ	○		
	ノミノツヅリ	○		
ニガキ科	ニガキ	○	○	木
ニシキギ科	ツルウメモドキ	○	○	木
ニレ科	エノキ	○	○	木
	ムクノキ	○	○	木
バラ科	キンミズヒキ	○	○	
	クサイチゴ	○	○	木
	シャリンバイ	○	○	木
	テリハノイバラ	○		木
	ナガバモミジイチゴ	○	○	木
	ナワシロイチゴ	○		木
	ノイバラ	○	○	木
	ビロードイチゴ	○	○	木
	ビワ	○	○	木・逸
	フユイチゴ	○	○	木
	ヤブヘビイチゴ	○		
	ヤマザクラ	○	○	木
ヒメハギ科	ヒメハギ		○	
ヒユ科	イノコズチ	○	○	
フウロソウ科	アメリカフウロ	○		外
ブドウ科	エビヅル		○	木
	ノブドウ	○	○	木
	ヤブガラシ		○	
ブナ科	アオナラガシワ		○	木
	アラカシ	○	○	木
	コナラ	○	○	木

表5. 確認された植物

NO.5

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
離弁花類 (続き)				
ブナ科 (続き)	シラカシ		○	木
	シリブカガシ	○	○	木
	スダジイ	○	○	木
	ツブラジイ		○	木
	ナラガシワ	○		木
	マテバシイ		○	木
ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	○		
ボロボロノキ科	ボロボロノキ	○	○	木
マツブサ科	サネカズラ	○	○	木
マメ科	アレチヌスビトハギ		○	外
	クズ	○	○	
	コメツブツメクサ	○		外
	シロツメクサ	○		外
	スズメノエンドウ	○		
	ナツフジ	○	○	木
	ニシキハギ		○	木
	ヌスビトハギ	○	○	
	ネコハギ	○	○	木
	ネムノキ	○	○	木
	ハリエンジュ	○	○	木
	マルバハギ		○	木
	メドハギ	○	○	
	ヤハズエンドウ	○		
	ヤハズソウ	○	○	
	ヤブマメ		○	
	ヤマハギ	○	○	木
	ヤマフジ		○	木
ミカン科	カラスザンショウ	○	○	木
ミズキ科	クマノミズキ	○	○	木

表5. 確認された植物

NO. 6

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
離弁花類 (続き)				
ミツバウツギ科	ゴンズイ	○	○	木
メギ科	ナンテン		○	木
モチノキ科	クログネモチ	○		木
	ナナミノキ	○	○	木
ユキノシタ科	コガクウツギ	○		木
L 合弁花類 (18科70種)				
アカネ科	キクムグラ	○		
	ヒメヨツバムグラ	○		
	ヘクソカズラ	○		
エゴノキ科	エゴノキ	○	○	木
オオバコ科	オオバコ	○	○	
	ツボミオオバコ	○		外
カキノキ科	カキノキ	○	○	木
キキョウ科	サイヨウシャジン	○		
	ヒナギキョウ	○		
	ヒナキキョウソウ	○		外
キク科	アキノノゲシ	○	○	
	イワニガナ	○		
	ウラジロチチコグサ	○		外
	オオアレチノギク	○		外
	オオキンケイギク	○		特外
	オオジシバリ	○	○	
	オカダイコン		○	
	オニタビラコ	○		
	コヤブタバコ		○	
	サケバヒヨドリ	○	○	
	セイトカアワダチソウ	○	○	外
	チチコグサ	○		

表5. 確認された植物

NO.7

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
合弁花類 (続き)				
キク科 (続き)	ツワブナ	○	○	
	ニガナ	○		
	ノコンギク		○	
	ノブキ		○	
	ノボロギク	○		外
	ハハコグサ	○		
	ヒメジョオン	○	○	外
	ヒヨドリバナ		○	
	フキ	○		
	ブタナ	○		外
	メリケントキンソウ	○		外
	ヤクシソウ	○	○	
	ヤブタバコ	○		
	ヤブタバコ	○		
	ヨメナ	○	○	
ヨモギ	○	○		
キツネノマゴ科	キツネノマゴ		○	
クマツヅラ科	アレチハナガサ	○		外
	クサギ	○	○	木
	ムラサキシキブ	○		木
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	○		外
	タチイヌノフグリ	○		外
	フラサバソウ	○		外
サクラソウ科	オカトラノオ	○	○	
	コナスビ	○	○	
シソ科	イヌコウジュ		○	
	キランソウ	○	○	
	セイヨウジュウニヒトエ	○		外

表5. 確認された植物

NO. 8

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
合弁花類 (続き)				
シソ科 (続き)	トウバナ	○		
	ホトケノザ	○		
スイカズラ科	キダチニンドウ	○	○	木
	サンゴジュ	○		木・逸
	スイカズラ	○	○	木
	ニワトコ	○		木
ツツジ科	シャシャンボ	○	○	木
	ネジキ	○	○	木
	ヤマツツジ		○	
ナス科	オオイヌホオズキ		○	外
	ヒヨドリジョウゴ	○	○	木
ハイノキ科	クロキ	○		木
	クロミノサワフタギ		○	木
	ミミズバイ		○	木
ムラサキ科	キュウリグサ	○		
	チシャノキ	○	○	木
	ハナイバナ	○		
モクセイ科	トウネズミモチ	○	○	木
	ヒイラギ	○		木
ヤブコウジ科	マンリョウ	○	○	木
種子植物 (75科 240種) ↳ 被子植物 (73科 238種) ↳ <u>単子葉類 (14科 52種)</u>				
アヤメ科	オオニワゼキショウ	○		外
	ニワゼキショウ	○		外
	ヒメヒオウギズイセン	○	○	外
イグサ科	クサイ	○		
	スズメノヤリ	○		

表5. 確認された植物

NO.9

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
単子葉類 (続き)				
イネ科	アオスズメノカタビラ	○		外
	アキノエノコログサ		○	
	アシボソ		○	
	カゼクサ		○	
	カニツリグサ	○		
	コスズメガヤ		○	外
	コメヒシバ		○	
	ササガヤ	○		
	ササクサ		○	
	シナダレスズメガヤ	○	○	外
	シバ	○	○	
	シマスズメノヒエ		○	外
	ススキ	○	○	
	タチスズメノヒエ		○	外
	チガヤ	○	○	
	チカラシバ		○	
	チヂミザサ		○	
	トボシガラ	○		
	ヌカススキ	○		外
	ネザサ	○	○	
	ネズミノオ		○	
	ホテイチク	○	○	
	ミゾイチゴツナギ	○		
メダケ	○	○		
メリケンカルカヤ	○		外	
ヤマヌカボ	○			
カヤツリグサ科	アオスゲ	○		
	シラスゲ	○	○	
	ナキリスゲ	○	○	

表5. 確認された植物

NO.10

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月28日	10月12日	
単子葉類 (続き)				
サトイモ科	マムシグサ	○		
ショウガ科	ハナミョウガ		○	
ツユクサ科	ツユクサ	○	○	
ハイノキ科	クロキ	○	○	木
ヒガンバナ科	タマスダレ	○		外
	ヒガンバナ	○	○	
モクセイ科	ネズミモチ	○	○	木
ヤシ科	シュロ	○	○	木
ヤマノイモ科	オニドコロ	○	○	
	カエデドコロ	○	○	
	ナガイモ	○		外
	ヤマノイモ		○	
ユリ科	サルトリイバラ	○	○	木
	ソクシンラン	○		
	ナガバジャノヒゲ	○	○	
	ヤブラン	○	○	
ラン科	コ克蘭		○	
	シュンラン	○	○	

(2) 鳥類

- ◆ 4目14科19種が確認された。
- ◆ 環境省準絶滅危惧種のハイタカが確認された。
- ◆ 特定外来生物のソウシチョウが確認された。

表6. 確認された主な鳥類

 <p>ハイタカ</p>	<p>国：準絶滅危惧種</p> <p>全長雄約 30～雌 40 cm。翼開張雄約 60.5～雌約 79 cm。移動するときは羽ばたきと滑翔を繰り返して直線的に飛ぶ。飛んでいるとき、翼はやや幅広く、尾は長く見える。高い木の上や枝先に止まり、獲物を見つけると飛び立って足の爪で小鳥類や小型獣類を捕獲する。</p> <p>(出典：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2001)</p>
 <p>ソウシチョウ</p>	<p>特定外来生物</p> <p>スズメ大の小鳴禽。体色は暗緑色で、眉斑から頬は薄い黄色、のどは黄色で胸は濃いオレンジ色、翼に黄色と濃い赤の斑紋があり、くちばしは赤い、雌雄の形態差は小さい。</p> <p>中国南部、ベトナム北部からミャンマー北部、インド・アッサム地方、ヒマラヤ西部まで分布する。原産地では標高 1000～3000mほどの山地の落葉広葉樹林、竹林などの下層部や藪を主な生息としている。中国では古くから飼い鳥として親しまれ、ヨーロッパや北米へ輸出されていた。現在、ハワイ諸島やヨーロッパ各地で移入個体群が定着している。</p> <p>(出典：外来種ハンドブック)</p>

表7. 確認された鳥類

NO.1

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	11月1日	
キツツキ目 (1科1種)				
キツツキ科	コゲラ	○	○	
スズメ目 (11科15種)				
アトリ科	カワラヒワ	○	○	
ウグイス科	ウグイス	○	○	
エナガ科	エナガ	○	○	
カラス科	ハシブトガラス	○	○	
	ハシボソガラス	○	○	
サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ	○	○	
シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	
チメドリ科	ソウシチョウ	○		特外
ヒタキ科	キビタキ	○		
	シロハラ	○		
	ジョウビタキ		○	
	ヤマガラ	○	○	
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	
ホオジロ科	ホオジロ	○		
メジロ科	メジロ	○	○	
タカ目 (1科1種)				
タカ科	ハイタカ		○	(国)準絶
ハト目 (1科2種)				
ハト科	アオバト	○		
	キジバト	○	○	

(3) 昆虫類・クモ類

- ◆ 12目82科188種が確認された。

表8. 確認された主な昆虫類・クモ類

 <p>ベニツチカメムシ</p>	<p>大きさは1.6~1.9 cm。本州（西日本）、四国、九州、南西諸島/1年中/平地~山。幼虫はボロボロノキの実を採食する。成虫は各種の広葉樹の上に1年を通じて群生。亜社会性をもつ。</p> <p>(出典：日本の昆虫 1400)</p>
 <p>ジュウシチホシハナムグリ</p>	<p>大きさは1.13~1.45 cm。本州（関東以西）、四国、九州、五島列島、屋久島/5~7月。東日本の分布は群馬県辺りまでで、西日本が分布の中心になる。夏季に各種の花に集まる。体色は黒の個体が多いが、赤の個体も見られる。東日本ではあまり多い種ではないが、ノリウツギやシシウドの花などでたまに見られる。幼虫は林床の朽ち木中に見られる。</p> <p>(出典：日本産コガネムシ図鑑)</p>
 <p>ヒゲコメツキ (オス)</p>	<p>大きさは2.1~2.7 cm。北海道、本州、四国、九州/5~7月/平地~丘陵。各種の樹林で見られ、しばしば明かりに飛来する。触角がくしひげ状なのがオスで、メスは糸状。</p> <p>(出典：日本の昆虫 1400)</p>

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.1

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	10月16日	
アカミカゲロウ目 (2科2種)				
ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ	○	○	
ツノトンボ科	ツノトンボ		○	
カマキリ目 (1科3種)				
カマキリ科	オオカマキリ	○	○	
	チョウセンカマキリ		○	
	ハラビロカマキリ	○	○	
カメムシ目 (11科15種)				
エビロカメムシ科	エビロカメムシ	○		
オオヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ	○	○	
カメムシ科	アオクサカメムシ	○	○	
	キマダラカメムシ	○	○	
セミ科	アブラゼミ	○	○	
	クマゼミ	○	○	
	ニイニイゼミ	○	○	
ツチカメムシ科	ツチカメムシ	○	○	
	ベニツチカメムシ		○	
ハナカメムシ科	ヤサハナカメムシ	○		
テングスケバ科	ツマグロスケバ		○	
ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ		○	
ハリカメムシ科	ホオズキカメムシ	○	○	
ホソハリカメムシ科	ホソハリカメムシ	○	○	
マルカメムシ科	マルカメムシ	○	○	
コウチュウ目 (12科42種)				
オサムシ科	ヒメオサムシ	○		
	ツヤマルガタゴミムシ		○	
カミキリムシ科	アトモンチビカミキリ		○	
	キクスイカミキリ	○		
	ゴマダラカミキリ	○	○	
	ゴマフカミキリ	○		

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.2

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	10月16日	
コウチュウ目 (続き)				
カミキリムシ科 (続き)	ツマグロハナカミキリ	○	○	
	ノコギリカミキリ	○		
	ヒゲコメツキ	○		
	ホシベニカミキリ	○		
	マツノマダラカミキリ	○	○	
	ヨツスジトラカミキリ	○		
	ラミーカミキリ	○		
	リンゴカミキリ	○		
コガネムシ科	アオドウコガネ	○	○	
	カナブン		○	
	クロコガネ	○	○	
	コブマルエンマコガネ	○	○	
	サツマコフキコガネ	○		
	ジュウシチホシハナムグリ	○		
	シロテンハナムグリ		○	
	セマダラコガネ		○	
	ヒメコガネ	○	○	
	ビロウドコガネ	○	○	
	マメコガネ	○		
ゴミムシダマシ科	キマワリ	○	○	
	ホソスナゴミムシダマシ	○	○	
	ユミアシゴミムシダマシ	○	○	
シテムシ科	オオヒラタシテムシ	○		
	ヨツボシモンシテムシ	○		
センチコガネ科	センチコガネ	○	○	
ツチハンミョウ科	ヒメツチハンミョウ	○		
テントウムシ科	ナナホシテントウ	○	○	
	ナミテントウ	○	○	
ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ	○		

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.3

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	10月16日	
コウチュウ目 (続き)				
ハムシ科	アカガネサルハムシ	○	○	
	イタドリハムシ	○		
	ウリハムシ		○	
	クロウリハムシ	○	○	
	ユリクビナガハムシ	○	○	
ハンミョウ科	ナミハンミョウ		○	
ホタル科	ムネクリイロボタル	○		
ゴキブリ目 (1科1種)				
チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○	
チョウ目 (16科52種)				
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	○	○	
	アゲハ	○		
	キアゲハ	○	○	
	クロコノマ		○	
	モンキアゲハ	○	○	
カノコガ科	カノコガ	○		
イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	○	○	
シジミチョウ科	ウラギンシジミ	○	○	
	ウラナミシジミ		○	
	サツマシジミ	○		
	クロマダラソテツシジミ		○	
	ツバメシジミ	○	○	
	ベニシジミ	○		
	ムラサキシジミ	○		
	ヤマトシジミ	○	○	
	ルリシジミ	○	○	
シャクガ科	ウメエダシャク	○		
	トンボエダシャク	○		
シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.4

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	10月16日	
チョウ目 (続き)				
シロチョウ科 (続き)	スジグロシロチョウ	○	○	
	モンシロチョウ	○	○	
スズメガ科	オオスカシバ		○	
	ホシホウジャク		○	
	メンガタスズメ		○	
セセリチョウ科	クロセセリ	○	○	
	ダイミョウセセリ	○	○	
	チャバネセセリ		○	
タテハチョウ科	インガケチョウ	○		
	キタテハ		○	
	クロコノマチョウ	○		
	クロヒカゲ		○	
	コミスジ	○		
	ジャコウアゲハ	○	○	
	タテハモドキ	○	○	
	ツマグロヒョウモン		○	
	テングチョウ	○	○	
	ヒメウラナミジャノメ	○	○	
	ヒメジャノメ	○		
	ミドリヒョウモン		○	
	ムラサキシジミ		○	
ムラサキツバメ		○		
ドクガ科	チャドクガ	○	○	
ヒゲナガガ科	ホソオビヒゲナガ	○		
ヒトリガ科	カノコガ		○	
マダラガ科	ホタルガ		○	
ミノガ科	シバミノガ	○	○	
	チャミノガ	○	○	
ヤガ科	ハグルマトモエ	○	○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.5

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	10月16日	
チョウ目 (続き)				
ヤガ科 (続き)	ハスモンヨトウ	○	○	
	フクラスズメ	○	○	
	フタトガリコヤガ	○	○	
ヤママユ科	ヤママユ		○	
トンボ目 (4科18種)				
アオイトトンボ科	オオアオイトトンボ		○	
サナエトンボ科	ヤマサナエ	○		
トンボ科	ウスバキトンボ	○	○	
	オオシオカラトンボ	○	○	
	オニヤンマ		○	
	カトリヤンマ		○	
	クロスジギンヤンマ		○	
	コシアキトンボ	○	○	
	コノシメトンボ		○	
	シオカラトンボ	○	○	
	シオヤトンボ	○		
	チョウトンボ	○		
	ノシメトンボ		○	
	ハラビロトンボ	○		
ヤンマ科	オニヤンマ	○		
	カトリヤンマ	○		
	クロスジギンヤンマ	○		
ナナフシ目 (1科2種)				
ナナフシ科	エダナナフシ	○	○	
	トゲナナフシ		○	
ハエ目 (8科11種)				
アシナガバエ科	マダラアシナガハエ	○	○	
ガガンボ科	ベッコウガガンボ	○	○	
カ科	ヒトスジシマカ	○	○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.6

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	10月16日	
ハエ目 (続き)				
ニクバエ科	センチニクバエ	○	○	
ハナアブ科	オオハナアブ		○	
	シマハナアブ	○	○	
	ホソヒラタアブ	○	○	
ミズアブ科	コウカアブ		○	
ムシヒキアブ科	シオヤアブ	○	○	
	マガリケムシヒキ	○	○	
ユスリカ科	セスジユスリカ	○	○	
ハチ目 (5科10種)				
アナバチ科	サトジガバチ		○	
コハナバチ科	アオスジハナバチ		○	
スズメバチ科	オオスズメバチ	○	○	
	クロスズメバチ	○	○	
	セグロアシナガバチ	○	○	
ミツバチ科	キムネクマバチ	○	○	
	トラマルハナバチ	○	○	
	ニホンミツバチ	○	○	
ミフシハバチ科	チュウレンジハバチ	○		
	ルリチュウレンジ	○		
バッタ目 (6科9種)				
オンブバッタ科	オンブバッタ	○		
イナゴ科	ツチイナゴ	○	○	
バッタ科	ショウリョウバッタ	○		
	トノサマバッタ		○	
	ハネナガイナゴ		○	
	ヒナバッタ		○	
ヒシバッタ科	ヒシバッタ	○	○	
ヒバリモドキ科	キンヒバリ	○	○	
マツムシ科	アオマツムシ		○	

表9. 確認された昆虫類・クモ類

NO.7

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月19日	10月16日	
クモ目 (15科23種)				
アシナガグモ科	アシダカグモ	○		
	コシロカネグモ	○	○	
	チュウガタシロカネグモ	○	○	
	ヤサガタアシナガグモ	○	○	
ウズグモ科	カタハリウズグモ		○	
カニグモ科	ハナグモ	○	○	
キンダグモ科	イオウイロハシリグモ	○		
コガネグモ科	コガネグモ	○	○	
	ナガコガネグモ	○	○	
	ワキグロサツマノミダマシ		○	
コモリグモ科	ウヅキコモリグモ	○	○	
	ハラクロコモリグモ	○	○	
ササグモ科	ササグモ	○	○	
ジグモ科	ジグモ	○	○	
ジョロウグモ科	ジョロウグモ	○	○	
タナグモ科	クサグモ	○	○	
チリグモ科	チリグモ		○	
ハエトリグモ科	アオオビハエトリ	○	○	
	ネコハエトリ	○	○	
ヒメグモ科	オオヒメグモ	○	○	
	ヒメグモ	○		
ヒラタグモ科	ヒラタグモ	○	○	
ユウレイグモ科	ユウレイグモ		○	

(4) は虫類・両生類

- ◆ 3目6科6種が確認された。
- ◆ 環境省絶滅危惧Ⅱ類、福岡県絶滅危惧Ⅱ類のカスミサンショウウオが確認された。
- ◆ 福岡県絶滅危惧Ⅱ類のニホンアカガエルが確認された。

表10. 確認された主な は虫類・両生類

	<p>国：絶滅危惧Ⅱ類 県：絶滅危惧Ⅱ類</p> <p>最大全長13cmほどで、黄褐色～暗褐色の体色に多くの個体で尾の上部に黄色の条線が見られる。繁殖期は1～4月頃で、1対の卵のうを水底の落葉や小石などに産み付ける。幼生は4ヶ月ほどで変態し、上陸後は周辺の雑木林や竹林に分散し土壌動物を食べて生活する</p> <p>(出典：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014)</p>
	<p>大きなもので20cmぐらい。尾は長くスマートに見える。背中は茶色。腹は白っぽい。昆虫や蜘蛛など小動物を食す。名前に「ヘビ」とついているがトカゲの仲間。春から秋にかけて住宅地や畑、林、河原、山地などさまざまな場所で見かける。敵に捕まると自分から尾を切って逃げる。</p> <p>(出典：いきものみつけ手帖 環境省自然環境局生物多様性センター)</p>
	<p>県：絶滅危惧Ⅱ類</p> <p>体長は3cm～7.5cm。体色は赤褐色で、背中の左右の黄色い筋がまっすぐ平行に通っている。普段は草むらや森林、平地、丘陵地等の地上に生息している。産卵は他のカエルより早く、1月頃より始まり、産卵数は500～300卵ほど。産卵場所は、水田や湿地で、繁殖期が終わると再び落ち葉等に潜り、5月頃まで冬眠する。</p> <p>(出典：ウィキペディア 福岡県レッドデータブック 2014)</p>

表11. 確認された は虫類・両生類

NO.1

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		4月2日	9月3日	
は虫綱 有鱗目 (3科3種)				
カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	○	
トカゲ科	ニホントカゲ	○	○	
ヤモリ科	ニホンヤモリ		○	
両生綱 有尾目 (1科1種)				
サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	○		(国)Ⅱ類、(県)Ⅱ類
両生綱 無尾目 (2科2種)				
アカガエル科	ニホンアカガエル		○	(県)Ⅱ類
ヌマガエル科	ヌマガエル		○	

(5) ほ乳類

- ◆ 3目3科3種が確認された。

表12. 確認された主な ほ乳類

	<p>頭胴長 57.6～68.2 cm。ムジナという呼び名でお馴染みの里山動物。主にミミズ類など土壌動物や小動物を採食するが、雑食性で果実なども食べる。丘陵地から山地の森林に生息し、地中にトンネルを掘り家族で暮らす。関東近県では、11月下旬～4月頃まで冬ごもりするが、温暖な地域では冬ごもりをしない。日本固有種。</p>
<p>アナグマの穴と思われる</p>	<p>(出典：哺乳類のフィールドサイン観察ガイド)</p>
	<p>頭胴長 12.5～18.5 cm。西日本に広く分布する日本固有種。(東日本にはやや小型のアズマモグラが分布) 草原や農耕地から山地の森林まで分布する。昆虫類、ミミズ類を主に捕食するが、ジムカデ類、ヒル類、カエル類、植物種子なども採食する。地下に広葉樹の葉を使った巣を作り、通常春に1回、2～6頭の仔を産む。寿命は3年余。</p>
<p>コウバモグラの塚とトンネル</p>	<p>(参考：「日本の哺乳類」改訂版 阿部 永)</p>

表13. 確認された ほ乳類

科名	種名 (和名)	春季調査	秋季調査	備考
		6月3日	11月14日	
鯨偶蹄目 (1科1種)				
イノシシ科	イノシシ		○	食べ物を探した跡を確認
真無盲腸目 (1科1種)				
モグラ科	コウバモグラ	○	○	塚とトンネルを確認
食肉目 (1科1種)				
イタチ科	アナグマ		○	食べ物を探した跡を確認

6 まとめ

今回の調査では、のべ191科479種の生物が確認された（表14参照）。
また、4種の希少生物が確認された（表15参照）。

表14. 調査結果まとめ

	目	科	種
植 物		86	263
鳥 類	4	14	19
昆 虫 類	11	67	165
クモ類	1	15	23
は虫類	1	3	3
両生類	2	3	3
ほ乳類	3	3	3
合 計	22	191	479

表15. 確認された希少生物まとめ

	I A類 (国)	I B類 (国)	Ⅱ類 (国)	準絶 (国)	その他
植 物					ヒノキ【準絶】
鳥 類				ハイタカ	
昆虫類					
両生類			カスミサンショウウオ 【Ⅱ類】		ニホンアカガエル【Ⅱ類】

※表中各列のタイトルは環境省のレッドリストの分類を表し、【 】内は、福岡県のレッドデータの分類を表す。

今年度は、勝立・櫛野地区の調査を行った。調査は各分野2回（春季・秋季）行い、4種の希少生物、2種の特定外来生物を含む479種の生物を確認できた。

さらに把握を進めるためにも、引き続き調査の実施が求められる。

発行日 / 令和6年5月

編集・発行 / 大牟田市環境部環境保全課

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地

TEL : 0944 (41) 2721 FAX : 0944 (41) 2722

